

ある奴隷*の男が、ひどい仕打ちをする主人のもとから逃げ出しました。そして、つかまらないように、砂漠へと逃げこみました。

食べ物と、身を休める場所をさがして歩き回っているうちに、男は一つの洞窟を見つけました。中に入ってみると、だれもいませんでした。

ところが、そこはライオンのすみかだったので。ほとんど間を置かずに、ライオンがもどつてきました。男は恐ろしさにふるえ、①もう助からないと思いました。

しかし、男はたいへんおどろきました。ライオンは男に飛びかかって食べようとするどころか、甘えるようにすり寄ってきたのです。そして、苦しうに鳴きながら、前足を持ち上げました。

男が見ると、その足はひどくはれていました。よく調べると、②足のうらに大きなとげがささっていました。

男はとげをぬき、できるかぎり傷の手当てをしました。やがて、傷はすっかり治りました。

ライオンは男に、心から感謝しました。そして、③男を友だちだと思おうようになり、しばらくの間、二人は洞窟でいっしょにくらしました。

ことば * 奴隷：人としての自由をうばわれ、主人のために働かされていた人。

といいち
問一

―①で、男が「もう助からない」と思ったのはなぜですか。
最も合うものを一つ選びましょう。
ア 洞窟の中で、食べ物が見つからなかったから。
イ 逃げてきた主人に、洞窟で見つかったから。
ウ ライオンがもどってきて、食べられると思ったから。
エ 自分の足にとげがささり、動けなくなったから。

こたえ

といいに
問二

―②で、とげがささっていたのは、ライオンのどこですか。本文から四文字で抜き出しましょう。

といさん
問三

―③で、ライオンが男を友だちだと思うようになったのは、男が何をしてくれたからですか。

【これまでのお話】

主人から逃げた男は、洞窟で出会ったライオンの足からとげをぬき、傷を手当てしました。ライオンは男に感謝し、二人は友だちになって、いっしょにくらしていました。

【本文】

ところが、ある日、男は、人間の仲間といっしょに過ぎ、①町へもどりました。

町では、まもなく、逃げ出した奴隷だと気づかれてしまいました。男はくさりにつながれ、もとの主人のところへ連れていかれました。

主人は、ほかの人たちが同じように逃げ出さないよう、男に重い罰をあたえて見せようと考えました。そして、次の見せ物の日に、男を野獣*のいる場所へ投げこむように命じました。

ことば

* 野獣：ライオンなど、野生のけもの。

その日が来ました。観客が見守る闘技場**に、
野獣たちが放たれました。その中には、体が大きく、
いかにも恐ろしそうなライオンもいました。そこへ、
男が投げこまれました。

ところが、ライオンは男をひと目見ると、勢いよく
かけ寄ってきました。そして、親しみと喜びを体いっ
ぱいに表しながら、男の足もとに横たわったのです。

②観客たちは、たいへんおどろきました。そのライ
オンは、男が洞窟でいっしょにくらした、あの友だち
だったのです。

観客たちは、男の命を助けてほしいと、大声でさけ
びました。

町の長は、ライオンが受けた恩を忘れず、友だちを
大切にする姿に心を動かされました。そして、③男と
ライオンの両方を、自由にするように命じました。

ことば ** 闘技場：まわりに観客の席があり、中央で人や動物の戦いなどを見せていた場所。

なまえ
名前：

と
解く

と
問一

―①で、男が町へもどったのはなぜですか。最も合うものを一つ選びましょう。

ア ライオンの傷が、また悪くなったから。

イ 人間の仲間といっしょに過ごしたくなったから。

ウ 主人が迎えに来て、帰るように言ったから。

エ ライオンに、洞窟から追い出されたから。

こたえ

と
問二

―②で、観客たちは、ライオンが何をしたのでおどろきましたか。

--	--	--

と
問三

―③で、町の長は、だれとだれを自由にするように命じましたか。

	と	
--	---	--

問3

解答例：足のとげをぬき、傷の手当てをしてくれたから。

本文のどこを見るか

男がとげをぬき、傷の手当てをした場面と、その後の感謝の描写。

考え方

友だちだと思うようになった理由を、男がしてくれた具体的な行動と結びつけます。

採点ポイント

「足のとげをぬいてくれたから」「傷の手当てをしてくれたから」のどちらかでも正答です。二つとも書く指定はありません。「やさしかったから」だけなら、具体的に何をしたかを書き足すよう促します。

問2

正解：足のうら

本文のどこを見るか

傍線②「足のうらに大きなとげがささっていました」。

考え方

傷ついていた場所を正確に読み取ります。「足・の・う・ら」で四文字です。

採点ポイント

本文と同じ「足のうら」を正答とします。「前足」でも大まかな場所は理解していますが、四文字という条件と詳しい場所を確かめます。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

ライオンが洞窟にもどってきた場面と、その後の「男に飛びかかって食べようとするどころか」。

考え方

男はライオンに食べられると思いました。その予想に反して、ライオンはすり寄ってきます。

誤答の理由

ア：この時点の直接の理由は、ライオンの出現です。
イ：主人に洞窟で見つかったとは書かれていません。
エ：とげがささっていたのはライオンです。

問3

正解：男とライオン

本文のどこを見るか

傍線③「男とライオンの両方を、自由にするように命じました」。

考え方

観客は男の命を助けるように求めましたが、町の長は男とライオンの両方を自由にしました。

採点ポイント

二者が書ければ正答。順序は逆でもかまいません。「男」は「奴隷の男」「奴隷」も認めます。一方だけなら、「両方」がだれを指すかを確かめます。

問2

解答例：親しみと喜びを表しながら、男の足もとに横たわったから。

本文のどこを見るか

傍線②の直前、ライオンがかけ寄り、男の足もとに横たわった場面。

考え方

野獣に襲われる危険のある場所で、ライオンが男に親しみを示したことが意外だったのです。観客が二人の過去を知っていたとは書かれていません。

採点ポイント

「うれしそうにかけ寄り、足もとに横になった」「男を襲わず、なついたように接した」も正答。「かけ寄った」だけなら、親しげな様子や横たわった行動を書き足すよう促します。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

冒頭の「人間の仲間といっしょに過ごしたくなりました」。

考え方

男は人間の仲間を恋しく思いました。ライオンと仲が悪くなったわけではありません。

誤答の理由

ア：傷がまた悪くなったとは書かれていません。ウ：主人が迎えに来たわけではありません。エ：男は自分から別れを告げています。

使い方・出典・教材制作

奴隷とライオン／小学3・4年生向け

印刷と使い方

全8ページ。児童用は1～5ページ、解答・解説は6～7ページ、出典・使い方は8ページです。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。各回の本文を上、問題を下に並べて使います。

取り組み方

全2回です。各回の本文を最後まで読んでから、3問に取り組みます。第2回には教材用のあらすじを添えています。前回の内容を暗記する必要はありません。

問題と採点

各回3問、記述は1問です。全体で4択2問・抜き出し1問・短答1問・記述2問。記述の字数制限はありません。解答例と同じ表現でなくても、必要な内容が読み取れていれば認めます。第1回の問3は、とげを抜いたこと、または傷を手当てしたことのどちらかでも正答です。

読み方のポイント

男の予想と実際のライオンの行動、助けた出来事と再会を結びつけます。観客の願いと町の長の決定を区別します。観客が二人の過去を知っていたと決めつけず、目の前の行動から考えます。

作者・作品

作品：『奴隷とライオン』（イソップ寓話）
英語題：THE SLAVE AND THE LION
英訳：V. S. Vernon Jones

出典情報

Aesop's Fables; a new translation（1912年版）
Project Gutenberg 電子書籍番号11339
[掲載本文「THE SLAVE AND THE LION」](#)
<https://www.gutenberg.org/ebooks/11339>

翻訳・加工情報

ご提供の英訳をもとに、小学3・4年生向けに日本語訳し、語句・文の組み立て・段落を整えました。物語の流れを保ち、ふりがな・注釈・傍線・設問を加えています。第2回の「これまでのお話」は、教材用に追加したあらすじです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン

新しい教材のご案内

新しいおはなし読解プリントは、【家スタ！】公式アカウントで先行配信しています